



# 新鶴見小

江ヶ崎町2番1号 ☎583-8915

## 今年度初めての校外学習

### 芸術の秋 ～ 生の音楽にふれる体験

校長 佐藤 朗子

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、敬老の日、秋分の日連休後は、日中もすっかり暑さが落ち着きました。少しひんやりと感じる風に、秋を感じます。「子どもたちも気持ちよく学習に取り組むことができる。」と、ほっとしています。

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は多くの教育活動に影響が出ています。特に多くの人が集まる学校行事や校外学習は、中止となってしまったものもあります。その中で、横浜市立小学校の児童を対象とした「心の教育 ふれあいコンサート」が、今年度も横浜みなとみらいホールで開催されています。本校の5年生は、9月10日に鑑賞しました。1回の入場者数は定員の50%以下(1,000人以下)、座席は一つおき、入館時に手指消毒と検温、入場・退場は学校ごとに時間差をつけるなど、感染症拡大防止のために、様々な手立てがとられていました。

新鶴見小学校にとって、ふれあいコンサートが今年度初めての校外学習でした。子どもたちは現在の状況をよく理解し、電車内や会場でも落ち着いて、静かに過ごしていました。4年生までに校外学習を通して学んできた公共の場でのマナーも、しっかりと身に付けていたのでしょうか。

例年であれば他の見学場所と合わせて一日の校外学習を計画するのですが、密を避けて昼食をとることが難しいため、今回はコンサート鑑賞のみとしました。入場と退場にかかなりの時間を要したため、帰校して昼食をとる時刻が遅くなってしまいましたが、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏を聴いて得たものは、とても大きかったようです。

#### ～子どもたちの振り返りから～

- ・ホールに入ったとたん、パイプオルガンの大きさにびっくりしました。
- ・「ポルカ」は、太鼓がメインで、体に振動が伝わる音楽でした。パイプオルガンは、いろいろな音が出せて、すごく遠くまで響く音で心に残りました。
- ・「小フーガ短調」を聴いたあとも、ずっと頭の中で流れていました。一人で三段の鍵盤を弾き、しかも何千もあるパイプから音を出していて、すごかったです。
- ・「運命」の曲のとき、バイオリンを弾いている人の手の動きがすごくぴったりで、びっくりしました。
- ・パイプオルガンやティンパニーなどを生で聴くと、お腹にも振動がきて、機器で聴くより何倍も楽しいのだと分かりました。
- ・「私もこんな演奏をしてみたい。」と思いました。今日聴いた曲をピアノで弾いてみたいとも思いました。

実際に体験したからこそ、気付いたこと、感じたことがあったのだと思います。後ろの座席から子どもたちの様子を見ることができましたが、指揮を振るまねをしたり、曲に合わせて体を動かしたりして楽しんでいました。平成10年から毎年行われているコンサートなので、私も何度か子どもたちと鑑賞していますが、『行進曲「威風堂々」第1番』では、パイプオルガンも加わった演奏に全身が包まれ、何度聴いても胸が熱くなります。

こういうときだからこそ、子どもたちが体験する活動を大切にしていきたいと思います。安全を考えながら、日々の学びの中に可能なことを取り入れていきます。

10月17日には、スポーツフェスティバルがあります。当日、そしてその日に向かうまでの活動が、全校の子どもたちにとって、掛け替えのないものとなるよう願っています。